

心理学的視点から見た迷信の功罪

丹 治 光 浩

迷信は合理的な根拠を欠いていること、また生活に実害性が認められることで、否定的なイメージをもたれることが多い。にもかかわらず、多くの人々は未だ迷信とともに生きている。そこで、今回筆者は迷信を心理学的観点から分析し、その功罪について考察した。

まず、認知度をもとに86個の迷信を選出した。次に、これらの迷信を心理学的な観点でカテゴリー化したところ、(1) 根拠がない、または不明なもの、(2) 信仰・縁起に関係するもの、(3) 教えとしての意義が認められるもの、(4) 何らかの根拠が認められるもの、(5) 実害性が認められるものの5種類に分類することができた。

このうち「何らかの根拠が認められる迷信」については、本来の迷信の定義にはあてはまらないことから、迷信から除外することが妥当と考えられる。また、実害性の高い迷信については早期に正しい認識へと置き換わるかもしれないが、教育的な意義が認められる迷信については今後も語り継がれていく可能性がある。ただし、こうした迷信をどの程度許容するかについては、様々な要因が複雑に影響していることから、さらなる議論が必要と考えられる。

キーワード：迷信、功罪、心理学的視点

People tend to have negative images of superstitions because superstitions have no rational foundation and cause actual harm to life. Nevertheless, many people are still living with superstitions. This study analyzed superstitions from psychological perspectives and discussed their merits and demerits.

I first selected 86 superstitions based on the degree of recognition. I next categorized them from psychological perspectives into the following five categories: (1) Superstitions having no or unclear foundation; (2) Superstitions related to faith or luck; (3) Superstitions having significance as a caution; (4) Superstitions having some foundation; and (5) Superstitions causing harm.

I excluded "superstitions having some foundation" from the five categories because they do not fit the original definition of a superstition. I suggest that superstitions causing harm might soon be replaced by correct understanding, whereas superstitions with an educational significance, such as cautions, might be propagated to future generations. Various factors complexly affect the degree to which superstitions are accepted. I recommend conducting future studies on this topic.

Key words : superstitions, merits and demerits, psychological perspectives

I. 問題と目的

表1は辞書に記載されている迷信の定義の一覧である。その多くが根拠や合理性の欠如を特徴として挙げているが、明鏡国語辞典第3版など、複数の辞書で定義に「実害性」が付加されている。また、迷信に類する言葉に「縁起」や「ジンクス」な

どがあるが、これらの言葉に比べ実害性を特徴とする迷信にはネガティブな印象が強いように思われる。

日本において最初に迷信について体系的に論じたのは哲学者の井上円了であろう。井上(1987)は日本各地に語り継がれる迷信について調査した上で、その要因について意識的・無意識的な個人の

表 1 迷信の定義一覧

出典（出版年）	定義
広辞苑第7版 (2018)	迷妄と考えられる信仰、また、道理にあわない言い伝えなどを頑固に信じること。通常、現代人の理性的判断からみて不合理と考えられるものについていう。
大辞泉第2版 (2012)	俗信のうちで、合理的根拠のないもの。一般には社会生活上実害を及ぼし、道徳に反するような知識や信仰をいう。
明鏡国語辞典第3版 (2020)	科学的根拠がなく、社会生活に実害を及ぼすことが多いとされる信仰。
岩波国語辞典第8版 (2019)	(現在からみて) 合理性にかけ、道理に合わない言い伝えなどをかたくなに信じること。
大辞林第3版 (2006)	①科学的根拠がなく、社会生活に実害を及ぼすことが多いとされる信仰。ト占・厄日・丙午に関する信仰など。②誤って信じること。
日本語大辞典第2版 (1995)	間違っって信じられていること。また、そのように言い伝えられてきたこと。
日本国語大辞典第2版 (2001)	誤って信じること。誤信。
新明解国語辞典 (2019)	①客観的な根拠のないことを事実だと思い込むこと。②(その時点における) 科学の知識がある程度有れば、まちがいだということに気づくはずの事実を、正しいと思い込むこと。
精選国語辞典 (1997)	客観的な根拠のないことを信じること。

記憶・内外の諸事情・幻覚と身体への影響という複合的な要因を挙げている。また、迷信について精神医学の立場から論じた森田(1928)は、祈禱性精神病を迷信への執着の結果として捉え、迷信者に「それが迷信である」と論破することはかえってその迷信の強化につながると考えた。いずれにせよ、迷信が実害性を伴う点において、それは排除、克服すべき事柄だと考えるのが自然であろう。

しかしながら、迷信の発生機序に関する心理学理論としてのオペラント条件付け(小野, 2005)、自己成就的予言(Jahoda, 1969)、コントロール幻想、パターン認識(Vyse, 1997/1999)などは、人間が本質的に迷信から自由になることの困難性を示している。つまり、エビデンスが重視される現代社会の中にあっても、未だに多くの人々がいわゆる迷信に影響を受けながら生活しているといっても過言ではない。さらに言うならば、人々の中には迷信に何らかの意義を見出し、行動指針の一つとして積極的に生活の中に取り入れている人さえ存在する。

そこで、本研究では迷信を心理学的観点から捉え、分類するとともに、その功罪について考察する。

II. 方法

まず、(1) 今野圓輔(2010, 2021)、(2) 迷信調査協議会(1979, 1980a, 1980b)、(3) NAINÉ(2019)、(4) Japanote(2022)を利用し、日本における迷信を可能な限り収集した。ただし、祈禱などの明らかな宗教的儀式に関するもの、また占星術・姓名判断・人相術に関するものは省いた。

次に、収集された迷信(176個)に対して、臨床心理学を専攻する大学生134名(男性72名、女性62名、平均年齢19.4歳±1.8歳)を対象にアンケート調査を実施し、認知度が10%に満たない迷信を除外したところ、最終的に86個に集約することができた。

得られた迷信(86個)のカテゴリー化は、臨床心理学を専攻する学生5名(男性3名、女性2名、平均年齢21.4歳±1.8歳)と筆者の6名によって行った。カテゴリー化の作業において意見が分かれた場合、あるいは複数のカテゴリーに分類できる可能性が呈された場合は、合議によっていずれか一つのカテゴリーに分類した。なお、カテゴリー化に携わった学生は、筆者が担当する講義の中で協力者を募り、協力の承諾が得られた者の中から選出した。

Ⅲ. 結果および考察

1. 迷信の分類

分類の結果、86個の迷信は(1)根拠がない、または不明な迷信(30個)、(2)信仰・縁起に関する迷信(26個)、(3)教えとしての意義が認められる迷信(16個)、(4)何らかの根拠が認められる迷信(8個)、(5)実害性が認められる迷信(6個)の5種類に分類することができた(表2、および別紙資料参照)。

(1)「根拠がない、または不明な迷信」については最も数が多く、それが迷信のイメージにもつながっていると考えられる。たとえば、「風邪は人にうつせば治る」については、誰かに風邪をうつされた人が潜伏期間を経て発病した頃にうつした人の風邪が治ることがあることから生じた迷信と考えることができる。

(2)「信仰・縁起に関する迷信」については、「北枕」がその代表例であろう。釈迦が寂滅したとき、頭部を北の方向に向けていたことがその起源と言われている。また、「茶柱が立つと幸運が訪れる」については、生起率の問題もあるが、柱が立つことが家の反映(家が支えられる)をイメージさせることがその起源として考えられる。他にも「駿河の茶商人が質が劣るために売れ残る二番茶を売りやすくするために吹聴した」という説もある(岩井, 2003)。

(3)「教えとしての意義が認められる迷信」については、「食べてすぐ寝ると牛になる」「トイレの掃除をすると可愛い(きれいな)子が生まれる」等が挙げられる。いずれもマナーや推奨されるべき行動として、子どものしつけなどに使われてきた

ものである。

(4)「何らかの根拠が認められる迷信」については、「ツバメが低く飛ぶと雨が降る」「夕焼けの翌日は晴れ、朝焼けは雨になる」等があげられる。前者では、曇天の時は上昇気流が起こらないので、餌になる虫が低空を飛ぶという裏付けが考えられ、後者では、一般に日本における天候は西から東に移動すること、また朝焼けは東が晴れて西が雲のある状態で起きやすく、その雲が西から東に移動するため雨になりやすいということがその根拠として考えられる。

(5)「実害性が認められる迷信」については、「丙午の女性は気性が荒く、夫の寿命を縮める(夫を不幸にする)」といった迷信がその代表で、その年に生まれた女性に対して否定的なイメージが持たれることがある。実際、1966年の出生数が約25%減少したという報告がある(赤林, 2007)。近年、本迷信の認知度は低下していると思われるが、次の丙午である2026年を注視したい。また、雷の高電圧に対しゴム製品の絶縁効果は皆無であることが確認されているので、雷雨の中ではゴム長靴を履いていても安全性の保障は全くない。この迷信については、生命にかかわる重要な内容を含んでおり、早急に正しい認識に置き換えられることが期待される。

次に、得られた5種類(分類)の迷信を実害性と根拠性の2軸によって位置づけたところ図1のような結果になった。このうち「何らかの根拠が認められる迷信(8個)」については、定義上迷信のカテゴリーから除外するべきだと考えられる。

残りの78個の迷信は根拠性に乏しい点共通しているが、実害性の点ではかなりの幅があり、明

表2. 迷信の分類

()内は%

種類	数	例
(1) 根拠がない、または不明な迷信	30 (35)	「風邪は人にうつせば治る」「帽子をかぶるとハゲになる」等
(2) 信仰・縁起に関する迷信	26 (30)	「北に頭を向けて寝るのはよくない」「茶柱が立つと幸運が訪れる」等
(3) 教えとしての意義が認められる迷信	16 (19)	「食べてすぐ寝ると牛になる」「トイレの掃除をすると可愛い(きれいな)子が生まれる」等
(4) 何らかの根拠が認められる迷信	8 (9)	「ツバメが低く飛ぶと雨が降る」「夕焼けの翌日は晴れ、朝焼けは雨になる」等
(5) 実害性が認められる迷信	6 (7)	「丙午の女性は気性が荒く、夫の寿命を縮める(夫を不幸にする)」「ゴムの長靴は雷から身を守る」等
計	86 (100)	

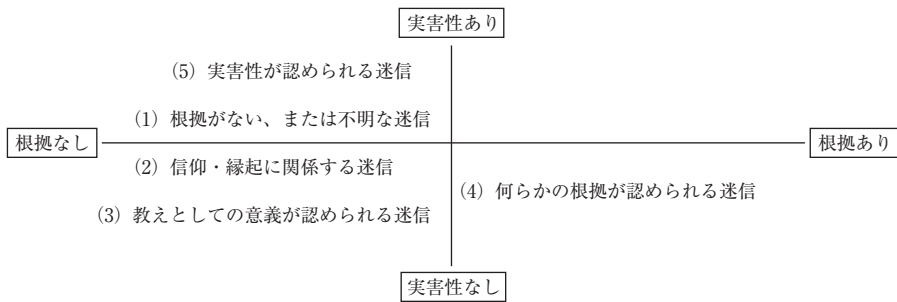


図1 根拠と実害性をもとにした迷信の分類

らかに有害性が認められる迷信から教育的な意義(効用)が期待できるものまでさまざまである。その点では、迷信を実害性のレベルで分類できる可能性が示唆される。また、教育的に意義があるからといって非科学的な考えを全面的に許容することに疑問が呈されることがある。たとえば、「食べてすぐに横になるのは行儀が悪い」と教えれば済むにも関わらず、わざわざ「食べてすぐ寝ると牛になる」という教えにする必要はないという主張である。これに対して「この迷信を科学的事実として認識している人はいない」という反論もあるが、迷信の中には「暗闇で本を読むと視力が落ちる」など一見根拠がありそうな迷信も混在している点が問題を複雑にしているのである。

2. 迷信の特徴

次に、迷信の特徴としての「伝承性」、「時代性」、「地域性」の3点について考察する。多くの迷信は、根拠の有無に関係なく、生活の中で語り継がれてきた考えである。たとえば、「山の神を怒らせてしまう」という理由でトンネル工事に女性を参加させないという女人禁制の方針が長く続けられてきた。近年は男女共同社会参画の意識の浸透に伴い、見直しが検討されているものの、現在も女性保護を理由に労働基準法(第64条の2)では「坑内で行われる業務のうち人力により行われる掘削の業務その他の女性に有害な業務」として坑内業務の就業制限が謳われている。

また、迷信には時代性(相対性)が認められる。たとえば、「夜に爪を切ると親の死に目に会えない」という迷信には、昔は暗い場所での爪切りは

手元が見えなくて危険だったことを考えると教育的意義があったのだろうが、照明の行き届いた現代ではあまり意味をなさなくなった迷信であり、いずれ伝承の対象から外れることが予想される。

さらに、迷信については地域性が認められる。たとえば、夜に口笛を吹くと「蛇が出る(関西)」、「泥棒が入る(兵庫、岐阜、福岡)」、「怖い夢をみる(富山県)」、「貧乏になる(千葉県)」、「山姥がくる(徳島県)」、「キツネが毬をついて山で踊る(滋賀県)」などといったような地域によって内容が異なる迷信をその例として挙げることができる。

3. 迷信の功罪

迷信には人を不安にさせ、否定的な効果(実害性)しか期待できない場合がある。たとえば、「黒猫を見ると不運なことがある」、「階段の下を歩くと不幸が訪れる」といった迷信は無意味に人を不安にさせ、場合によっては社会適応を阻害させることさえある。これは迷信に依存しすぎる場合も同様である。

一方、迷信に基づく習慣は、不安な時やコントロール不能の物事に直面した時の行動指針となり、人々に一定の安心感を与え、場合によっては自己効力感や社会適応性を高めることにも寄与する。このようなポジティブな結果(効用)は一種の偽薬効果(placebo)によるものと考えられる。

4. 迷信の克服

では、こうした迷信から自由になるためにはどうすればいいだろうか。心理学的には「行動しな

いでみる」、あるいは「他の行動をしてみる」といったように行動に変化をもたせることが迷信の消失に効果があると思われる。しかし、それはそう簡単なことではない。たとえば、「風邪薬を飲めば風邪が治る」と信じている人に、「一回飲むのをやめてみたらどうですか」と勧めても、「もしもひどくなって肺炎にでもなったらどうするんですか」と言われるのが落ちであろう。また、森田(1928)は「事実を事実としてありのままに知ることが最も正しい信念で、同時に最も大なる安心である」と述べているが、ありのままに見たり考えたりすることの難しさは多くの人が感じるであろう。

先にも述べたが、人間は本質的に迷信から自由にはなれないと思われる。したがって、現実的には迷信を乗り越えるというよりも、迷信とともに生きていく方策を模索した方がよいようにも思われる。この点について Vyse (1990/1999) は、実際の努力(準備)とセットで迷信を信じることを勧めている。例えば、試験にお守りを持参するのはよいが、実際にしっかり勉強すればさらに心強はずだと言うのである。お守りや習慣を持つことは、自分自身がポジティブに動けるように準備することなのである。もちろん実害性の高い迷信に振り回されることは避けたい。要はバランスの問題であろう。迷信に依存しすぎないように意識しながら迷信の力をうまく取り入れて生活していくことが最も適応的な生き方と言えるかもしれない。

IV. まとめ

1. 概して否定的な印象が持たれる迷信であるが、現在でも迷信は我々の生活の中に根付いているものが多い。
2. 心理学的な有用性としては、迷信を行動指針とすることで安心感が生じ、社会適応性を高める可能性を指摘することができる。
3. 迷信の伝承性において合理的な根拠の有無はそれほど関係せず、有用性がどの程度あるかによって決定すると考えられる。
4. 実害性が認められる迷信については、効用の観

点からいずれ伝承の対象から外されるものと考えられるが、より早急に実害性を排除するためにはエビデンスを重視した教育の必要性を指摘することができる。

5. 人間の特性として迷信から完全に自由になることは難しい現実の中で、我々にできることは、その効用をうまく生活の中に取り入れていくことなのかもしれない。

文献

- 赤林英夫 (2007). 丙午世代のその後－統計から分かること－. 日本労働研究雑誌, 569, 17-28.
- 井上円了 (1987). 迷信と宗教. 国書刊行会.
- 岩井宏實 (2003). 日本の伝統を読み解く:暮らしの謎学. 青春出版社
- Jahoda, G. (1969). The psychology of superstition. London: Allen Lane. 塚本利明・秋山庵然 (訳) (1979). 迷信の心理学. 法制大学出版局.
- Japanote (2022). 日本の迷信・厳選 50 の【一覧】. <https://ideal616.com/meishin/> (2022年8月20日取得)
- 北原保雄 (編) (2020). 明鏡国語辞典第3版. 大修館書店.
- 今野圓輔 (2010). 日本人の習俗・迷信. 日本図書センター.
- 今野圓輔 (2021). 日本迷信集. 河出書房新社.
- 森田正馬 (1928). 迷信と妄想. 実業之日本社.
- 松村明 (監) (2012). 大辞泉第2版. 小学館.
- NAINE (2019). 日本の迷信・ジンクス・俗信一覧. <https://origamijapan.net/origami/2019/05/16/superstition/> (2022年8月20日取得)
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部 (編) (2001). 日本国語大辞典第2版 第12巻. 小学館.
- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫・柏野和佳子・星野和子・丸山直子 (編) (2019). 岩波国語辞典第8版. 岩波書店.
- 宮地裕・甲斐睦朗 (監) (1997). 精選国語辞典第4版. 明治書院.
- 松村明 (監) (2006). 大辞林第3版. 三省堂.
- 迷信調査協議会 (1979). 日本の俗信 1 (迷信の実態). 洞史社.
- 迷信調査協議会 (1980a). 日本の俗信 2 (俗信と迷信). 洞史社.
- 迷信調査協議会 (1980b). 日本の俗信 3 (生活慣習と迷信). 洞史社.
- 小野浩一 (2005). 迷信はどうやって生まれるのですか? . 心理学ワールド (28), 34.
- 新村出 (2018). 広辞苑第7版. 岩波書店.
- 梅棹忠夫・金田一春彦・阪倉篤義・日野原重明 (監) (1995). 日本語大辞典第2版. 講談社.

- Vyse, S. (1990). *Superstition: Believing in Magic: The Psychology of Superstition*. London: Oxford University Press. 藤井留美訳 (1999). 人はなぜ迷信を信じるのか—思いこみの心理学. 朝日新聞社.
- 山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之 (編) (2012). 新明解国語辞典. 三省堂.

資料

迷信一覧と分類

※ () 内は認知度 (%)

(1) 根拠がない、または根拠が不明な迷信

・風邪は人にうつすと治る	(79)
・3人で写真に写った場合、中央の人が最も早く死ぬ	(32)
・ハチに刺されたらアンモニアを付けるとよい	(27)
・かかあ天下の夫婦には男の子が生まれ、亭主関白の夫婦には女の子が生まれる	(16)
・暗闇で本を読むと視力が落ちる	(98)
・酔を飲むと体が柔らかくなる	(29)
・牛乳を飲むと胸が膨らむ	(41)
・牛乳を飲むと背が伸びる	(100)
・しゃっくりが100回出ると死ぬ	(85)
・ワカメやコンブを食べると頭髪が増える	(98)
・スイカの種を飲み込むと虫垂炎になる (へそから芽が出る)	(27)
・風邪薬を飲めば風邪が治る	(100)
・帽子をかぶるとハゲになる	(66)
・ウサギは水を飲まない	(11)
・茗荷を食べると、物忘れする	(11)
・親不孝をするとささくれができる	(16)
・妊婦がナマコを食べると骨のない子が生まれる	(10)
・初ものを食べると75日寿命が延びる	(21)
・冬至にカボチャを食べると病気をしない	(43)
・鰻と梅干の食べ合わせはよくない	(22)
・耳に唾液をつけて水に潜ると耳に水が入らない	(22)
・焦げ飯を食うと、婚礼の日に犬に吠えられる	(13)
・耳たぶが大きいと金持ちになる	(62)
・蛇の皮 (抜け殻) を財布 (タンス) に入れておくと金運がよくなる	(82)
・くしゃみをするとき、他人が噂をしている	(93)
・興奮すると鼻血が出る	(93)
・山椒の木の前で歌を歌うと枯れる	(10)
・手の冷たい人は心が温かい	(79)
・偏平足 (土踏まずがない) の人は足が遅い (弱い)	(25)
・つむじを押すと便秘 (下痢) になる	(60)

(2) 信仰・縁起に関する迷信

・黒猫が前を横切ると縁起が悪い	(81)
・墓場で転んだ場合靴を片方置いてこないとあの世につれていかれる	(16)
・白蛇をみると良い事がある	(77)
・朝の蜘蛛は敵でも逃がせ (吉)、夜の蜘蛛は親でも殺せ (凶)	(57)
・葬式 (霊柩車・救急車) を目撃したら親指を隠さないと親の死に目に会えない	(32)
・靴下を履いて寝ると親の死に目に会えない	(29)
・茶に茶柱が立つと幸運がある (それを人に言うとも幸運が逃げる)	(93)
・夜、洗濯物を干すと縁起が悪い	(13)
・四葉のクローバーを見つけると幸せになる	(97)
・落ちている鏡を拾ってはいけない	(32)
・落ちている櫛を拾ってはいけない	(24)
・上の乳歯が抜けた時は床下に、下の乳歯が抜けた時は屋根の上に投げるとよい	(85)

・てるてる坊主に髪の毛を描くと雨が降る	(15)
・てるてる坊主をさかさに吊ると雨が降る	(90)
・ダイダイ（橙）を植えるのは縁起が良い	(13)
・箸を長く持つ子は遠くに、短く持つ子は近くに嫁ぐ	(20)
・鏡が割れると不幸が起こる（ケガをする）	(45)
・カラスが（カワート）鳴くと死者が出る	(30)
・妊婦が葬式に出たり死人に触る（見る）と黒い痣のある子が生まれる	(10)
・雛祭りが過ぎた後も雛壇を出し続けると晩婚になる	(41)
・初卵を食べると安産	(11)
・新しい靴（履物）をおろす時、部屋で履いてそのまま家の外に出てはいけない	(14)
・茶碗に盛ったご飯の上に箸を立ててはいけない	(89)
・北に頭を向けて寝るのはよくない	(75)
・一富士二鷹三茄子（縁起の良い初夢）	(84)
・流れ星が消えるまでに願いごとを3回唱えるとその願いが叶う	(94)
(3) 教えとしての意味が認められる迷信	
・夜に爪を切ると親の死に目に会えない	(56)
・夜に口笛を吹くと蛇（妖怪・泥棒・ひとさらい）がやってくる	(92)
・昼のへりを踏んではならない	(82)
・トイレの掃除をすると可愛い（きれいな）子どもが産まれる	(31)
・死人を猫がまたぐと死人が生き返る	(17)
・机の上に座ると尻尾が生える	(10)
・カゴ（ザル）をかぶると背が伸びない	(28)
・敷居を踏むと出世しない	(34)
・食べてすぐ寝ると牛になる	(75)
・火遊びをするとおねしょする	(29)
・茶碗を叩くと餓鬼が集まる	(10)
・ご飯を残すと目がつぶれる	(34)
・新しい靴は朝におろす（夕方におろしてはいけない）	(31)
・手鏡を上向きに置くと悪いものがくる	(31)
・墓石の前では親指を隠さないと親の死に目に会えない	(10)
・ミミズに小便をかけるとチンチンが腫れる	(43)
(4) 若干の根拠が認められる迷信	
・ヘソのゴマを取ってはいけない（風邪をひく）	(41)
・夕焼けの翌日は晴れ、朝焼けは雨になる	(24)
・アマガエルが鳴くと雨になる	(29)
・猫が顔を洗うと雨が降る	(39)
・ツバメが低く飛ぶと、雨が降る	(84)
・桜の木を庭に植えるのはよくない	(15)
・スイカと天麩羅の食べ合わせはよくない	(11)
・柿と蕎麦の食べ合わせはよくない	(10)
(5) 実害が認められる迷信	
・キノコは茎が縦に裂ければ毒キノコではない	(12)
・女性をトンネル工事に参加させてはならない（山の神を怒らせる）	(12)
・油で炒めると毒キノコの毒が消える	(19)
・クマに出会ったら死んだふりをすると助かる	(81)
・ゴムの長靴は雷から身を守る	(23)
・丙午生まれの女性は気性が激しく夫の命を縮める	(10)